5. 調査の結果

5.1 場の調査

西部丘陵地域の骨格となる地形としては、鷹取山山麓から愛宕山にかけての山々があります。鷹取山山麓は起伏に富み、まとまりのある樹林が残されています。愛宕山周辺には、水田や畑地と樹林が混在し、同様の環境が琵琶方面へとつながっています。金目川沿いの段丘崖 *10 には帯状の樹林があり、その間には樹林と農地が混在する地域が存在します。遠藤

■場の状況

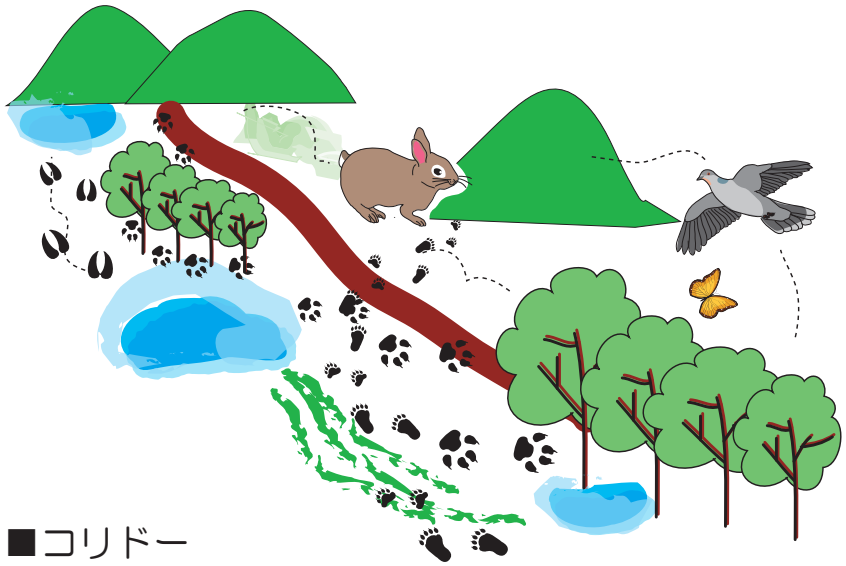
駒ヶ滝付近の谷戸
（2004 年 10 月 15 日）

金目川沿いの水田と斜面林
（2004 年4月 21 日）

原の台地は、おもに畑地として利用されており、緑は多くはありませんが里山 *11 的景観を残しています。一方、鷹取山から愛宕山をつなぐ高台の樹林は、ゴルフ場によって分断されていますが、地形としては連続しており、近くには中核となる緑（琵琶の樹林など）があります。このことから、将来コリドーとしての役割が期待できるかもしれません。

※
中核となる緑
　樹林が広く連なっており、生態系の中核となる地域

まとまりのある緑
　中核となる緑に準じて、樹林がまとまって分布する地域



■コリドー

　コリドーは「緑の回廊」とも呼ばれ、野生生物が移動できる経路を示す言葉です。

吉沢小学校付近
（2004 年 10 月 11 日）

鷹取山山麓の山並みと畑地
（2004 年 10 月 11 日）

*10 段丘崖：大地が少しずつ隆起し、それを河川が侵食するという繰り返しにより、平坦面とその前面に斜面が形成される。平坦面を段丘面、斜面を段丘崖という。

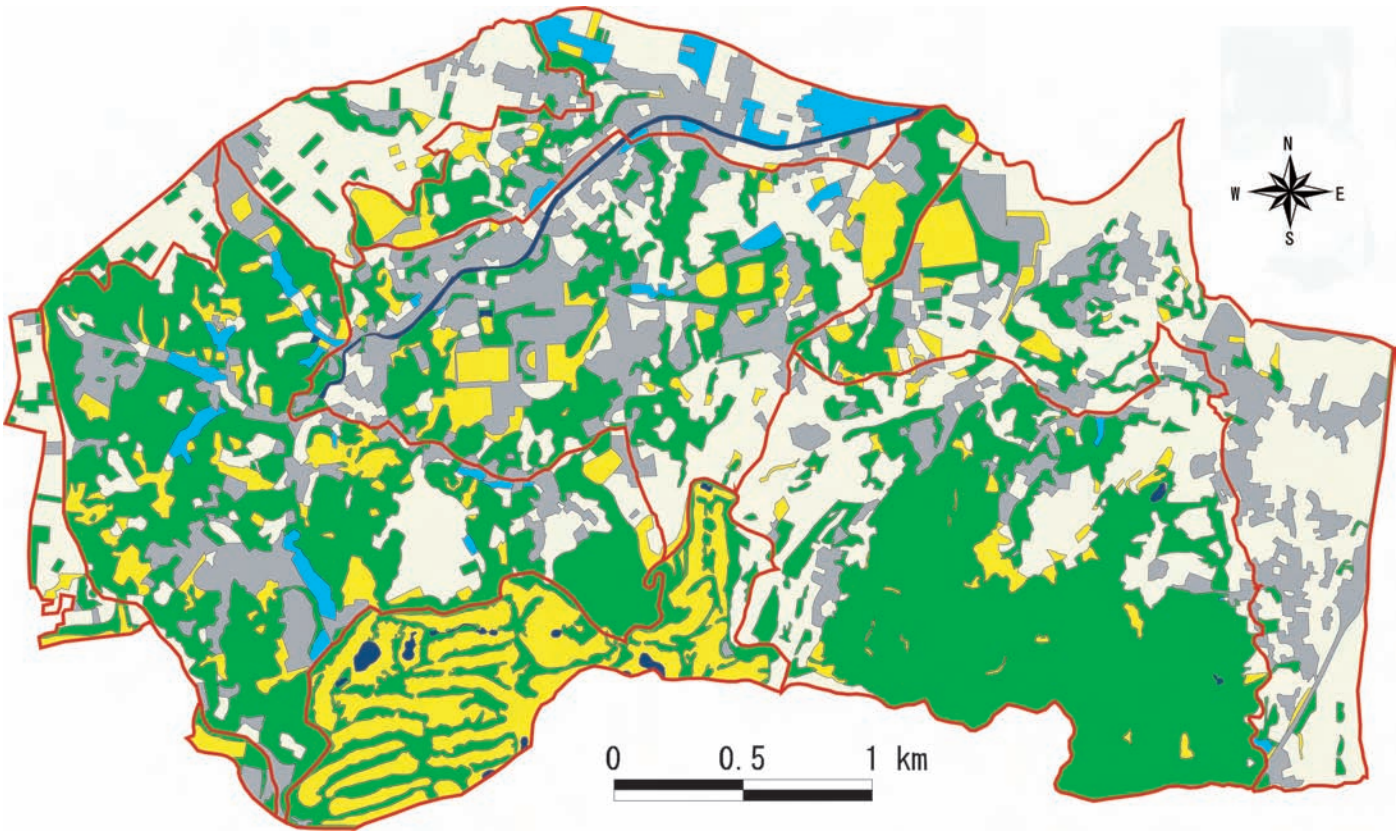
*11 里山：人びとの生活と結びついた森林や農地が一体となった人里の環境

5.2　緑の質調査

（1）植生調査

西部丘陵地域では、おもに低地や緩斜面が畑地、水田、住宅地として利用され、鷹取山山腹や丘陵斜面に樹林が残されています。樹林と畑地の占める面積が多く、地域全体における面積割合は樹林が 35%、畑地が 32% を占めます。次いで住宅地などが 18%、草地が 13%、水田が 2% となります。

23 ページの図は、航空写真判読と現地調査により作られた植生図です。樹林でもっとも広く分布するのは、いわゆる雑木林と呼ばれているコナラ群落であり、そのほかにスギ植林、モウソウチク・マダケ林、小面積ながら自然植生 *12 のスダジイ群落やケヤキ群落なども分布しています。



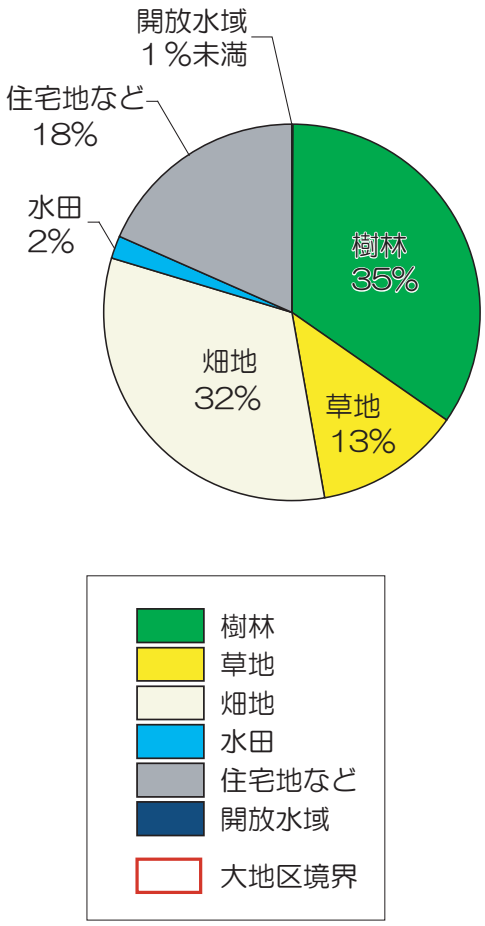
■緑の概況

*12 自然植生：人為的な影響を受けず、自然のままに植物が生育している群落

【林床調査】

コナラ群落を林床の状況別にみると、低木型とササ密生型が多くを占めており、林床管理が行われている開放型は狭い範囲に限られています。

コナラ群落は、おもにコナラやクヌギなどの落葉広葉樹が生育している、里山の代表的な群落です。これらの樹林では、1970 年代頃まで薪炭や肥料の材料として利用するために定期的な伐採や下草刈り、落ち葉かきといった作業が行われていました。その当時は、林床は開けて、明るい樹林を好む植物が豊富に生育していました。近年ではこのような作業が行われなくなり、コナラ群落の多くがササや低木が密生した林に変わっています。



代表的な林床の型

①コナラ群落（林床開放型）

定期的に下草刈りが行われているため、ササや低木が少なく、林床が明るい林です。日当たりを好む多くの植物が生息し、植物を利用する生物も豊かです。

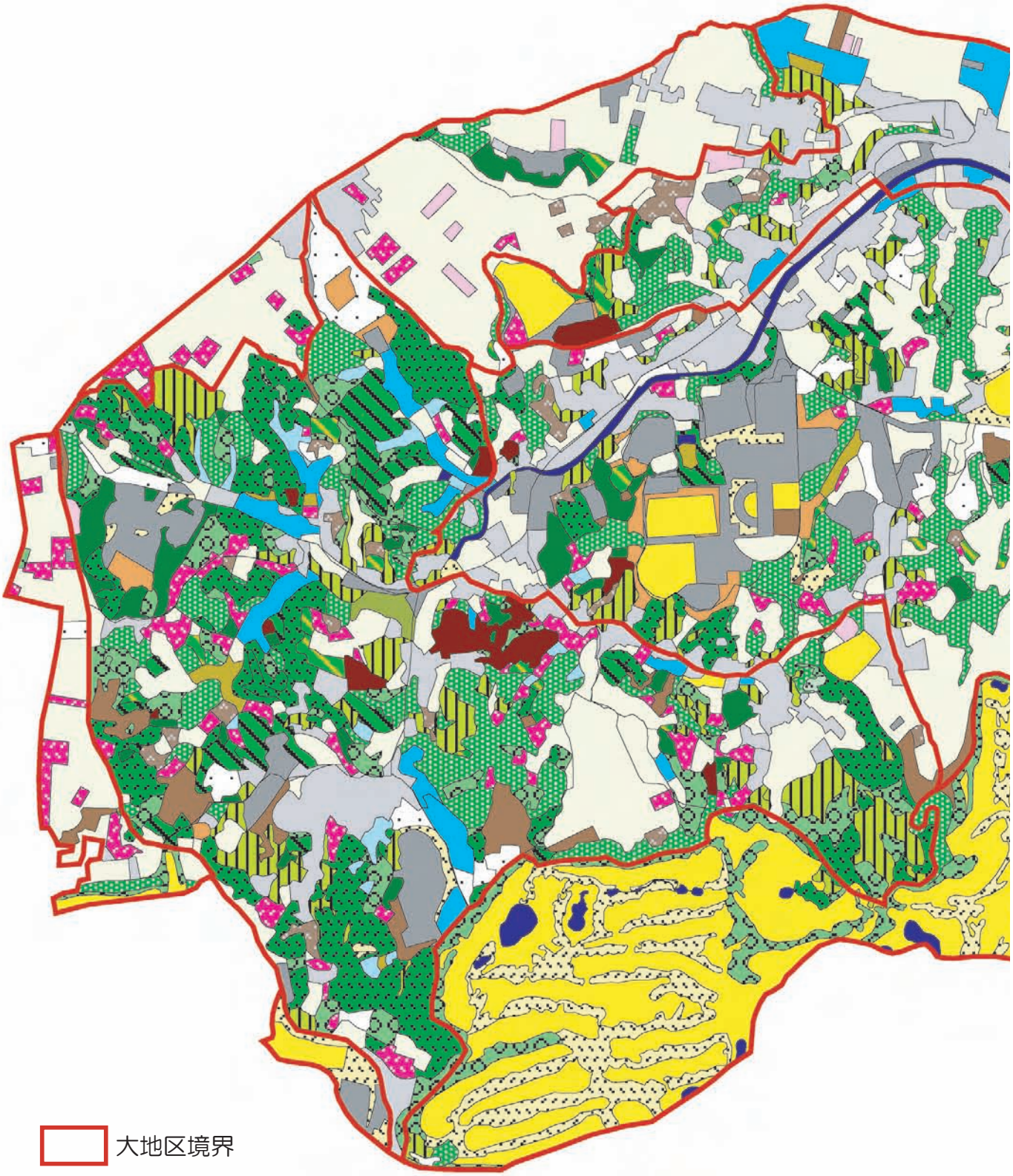
②コナラ群落（林床低木型）

林床の下草刈りが久しく行われておらず、低木が繁茂している林です。うっそうとした樹林を好む生物に利用されます。

③コナラ群落（林床ササ密生型）

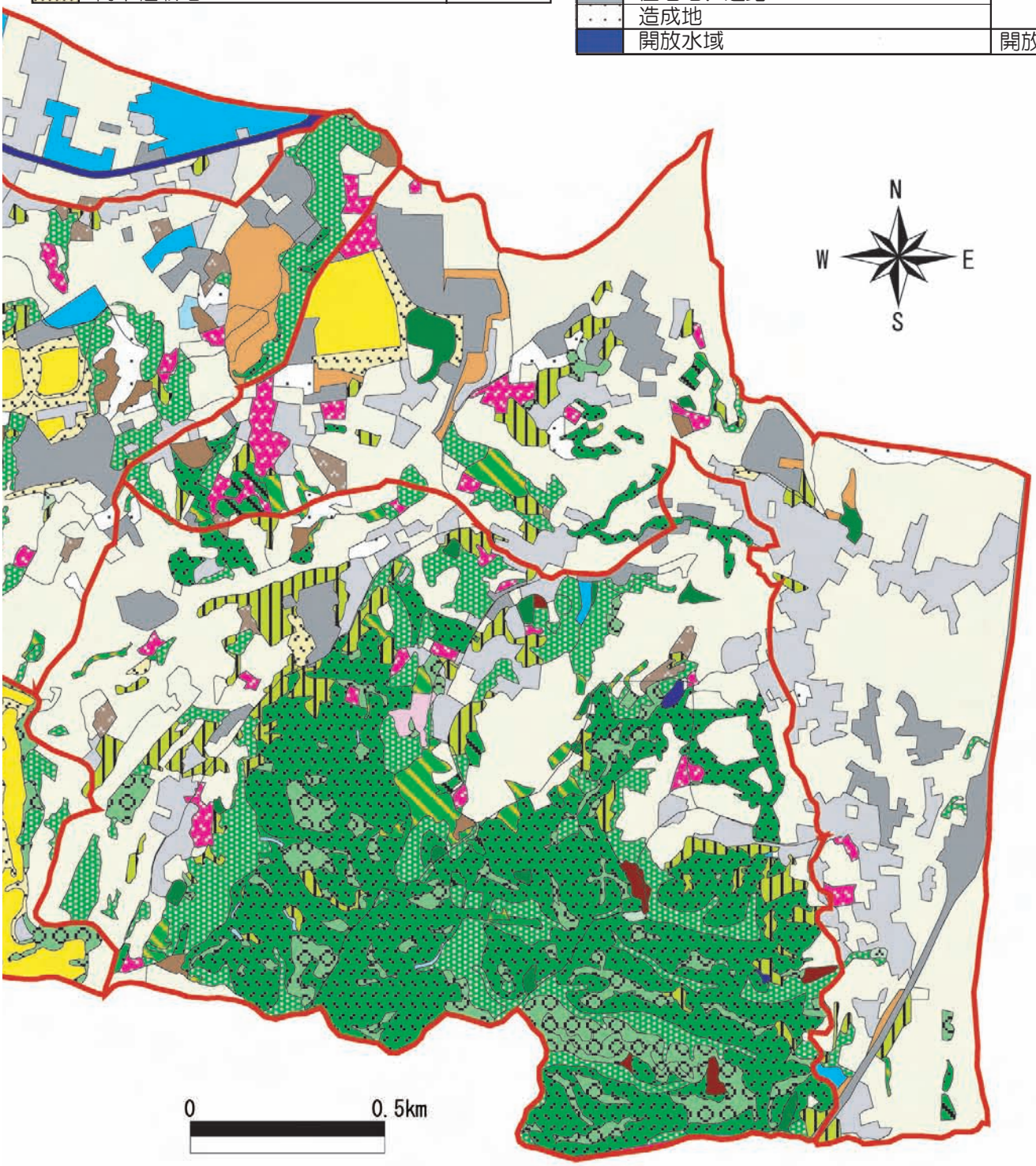
林床の下草刈りが行われなくなってササが密生した林です。密生するササのため、林床の日当たりが悪く、生育できる植物はわずかになります。

■西部丘陵地域の植生図



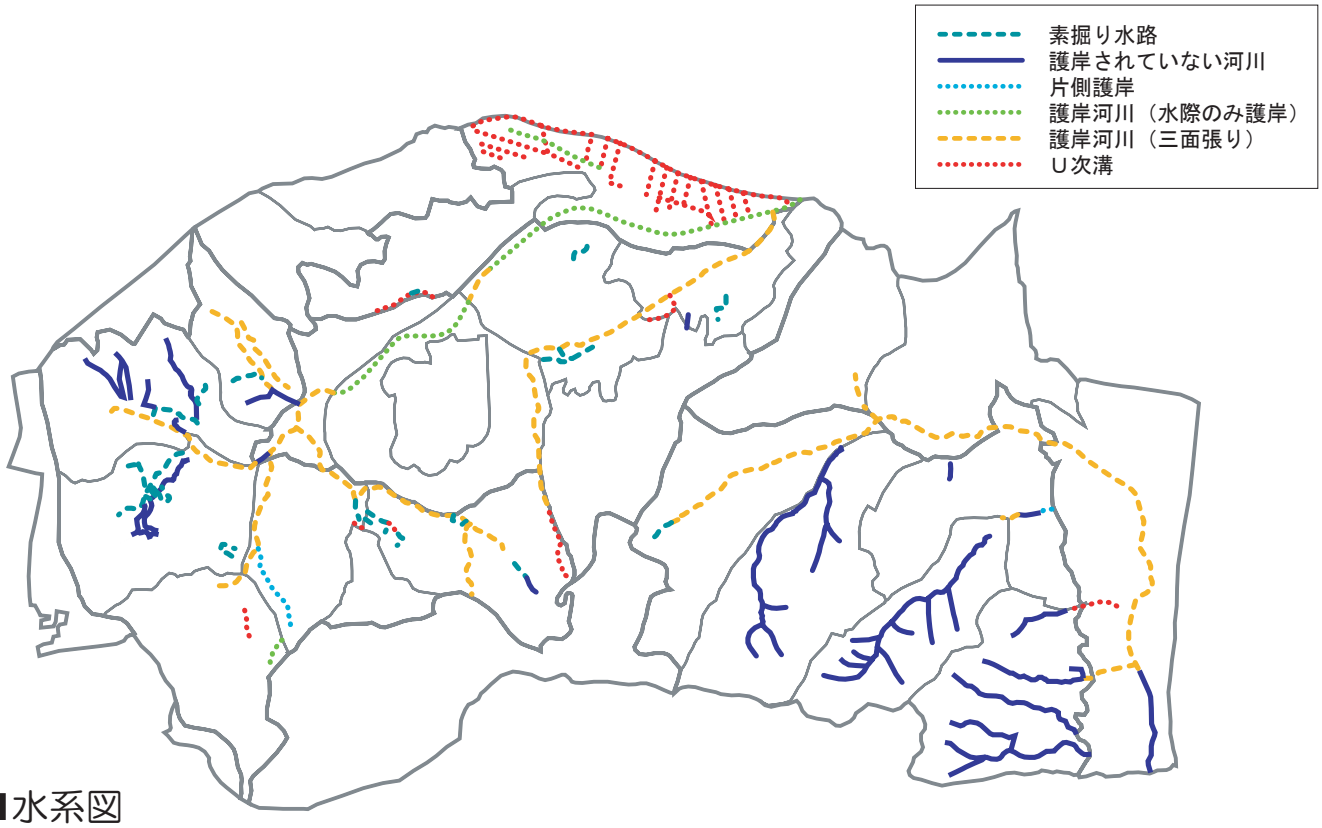
	群落名	区　分
	スダジイ群落	樹林
	ケヤキ群落	
	コナラ群落（林床開放型）	
	コナラ群落（林床低木型）	
	コナラ群落（林床ササ密生型）	
	ムクノキーケヤキ群落	
	スギ植林	
	モウソウチク・マダケ林	
	陽性低木群落	
	果樹園	
	苗木畑	
	樹木植栽地	

	群落名	区　分
	アズマネザサ群落	草地
	ススキ群落	
	伐採跡地	
	ヨシ群落	
	水田放棄植物群落（湿性植物群落）	
	畑放棄植物群落	
	芝地、グラウンド	
	草地（人工法面など）	
	水田	水田
	畑地	畑地
	緑の多い住宅地	住宅地など
	住宅地、道路	
	造成地	
	開放水域	開放水域



（2）水系調査

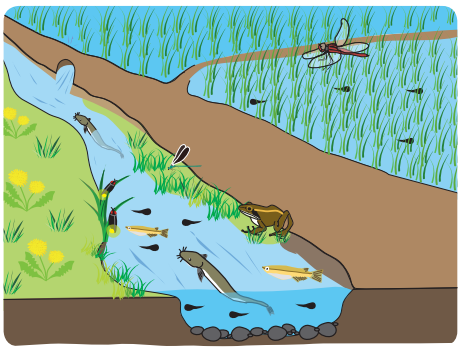
水辺を生物の生息場所としてみると、水域と陸域とが大きな落差やコンクリートによって分断されずにつながっていることが大切です。自然の形状が残されている川では、水域には水草が、土手には日陰をつくる樹木などが生えているので、水生生物の隠れ家や産卵場が豊かにあります。カエルなど水域と陸域を行き来する生物の移動も容易です。コンクリート護岸などによって、河川の形状が改変されたり、水際の連続性が分断されると、これらの生息



■水系図

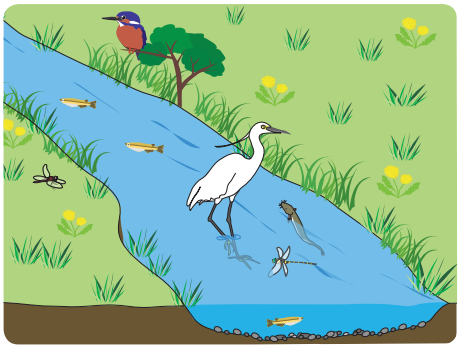
素掘り水路

灌漑用に水田の脇に掘られた細い水路です。掘り込んだままでコンクリート化されていないので、ドジョウやオタマジャクシなどの生息場所になります。



護岸されていない河川

護岸されておらず、本来の姿を残している河川です。多くの生物の生息場所になります。

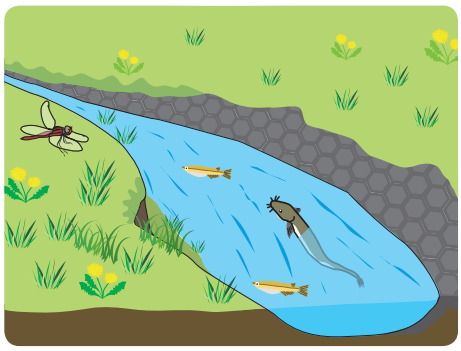


が難しくなります。

市街地の近くの河川は、ほとんどが生物の生息に適さないコンクリート護岸された河川となっています。生物の生息に適した水辺としては、コンクリート護岸されていない河川が不動川と座禅川の上流に、素掘り水路が低地の水田域にみられます。

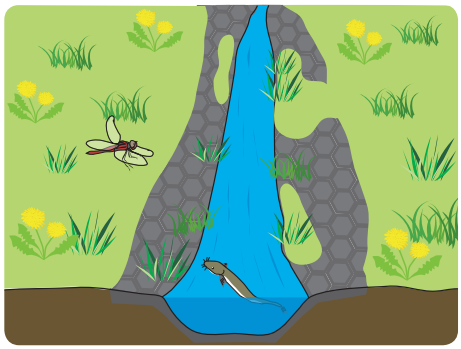
片側コンクリート護岸河川

片側の岸が護岸された河川です。改変されていますが、護岸されていない方の岸は水際の連続性が残されているため、生物の生息場所として機能します。



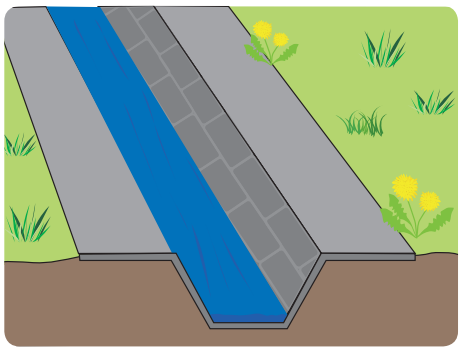
コンクリート護岸河川（水際のみ護岸）

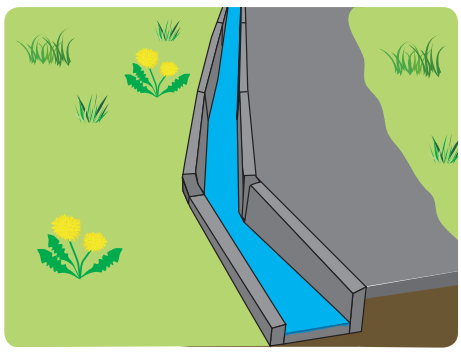
岸の水際だけが護岸された河川です。水際以外は、コンクリート化されていない土手が残るので、ある程度の生物の利用が可能です。



コンクリート護岸河川（三面張り）

両岸と川底がコンクリートによって護岸された河川です。生物の利用や移動が困難になり、生息場所として適しません。



U字溝

U字型のコンクリートブロックが埋め込まれた水路です。一度中に入ると脱出できなくなるので、生物の利用は困難です。